

「第3回大船渡線沿線自治体首長会議」及び「第3回気仙沼線沿線自治体首長会議」の内容について

「第3回大船渡線沿線自治体首長会議」について

■ JR東日本より、大船渡線における、BRTのサービス向上に向けた取組状況について、報告が行われた。ポイントは以下の通り。

- ・大船渡魚市場前駅の新設、沿線高校生の要望を踏まえたダイヤ改正など、利便性の向上図った
- ・意見交換会やモニター募集により、利用者の意見収集を行った
- ・三陸沿岸地域の物産販売を行う「三陸のものマルシェ」の開催、沿線自治体が主催するイベントへの出展など、地域貢献・地域活性化に取り組んだ

■ 沿線自治体首長から、JR東日本の提案（BRTによる本格復旧）について、検討結果や要望等の説明があった。主な発言内容は以下の通り。

（大船渡市長）

- ・BRTによる本格復旧はやむを得ない。JR東日本から示された復旧方針を受け入れる
- ・BRT受け入れにあたり、今月18日、JR東日本に対し、持続性の確保や利便性の向上等について、要望書を提出。要望事項の実現に向け、特段の配慮をお願いしたい
- ・今回の会議で、大船渡線の復旧方針が決定されることを期待

（陸前高田市長）

- ・BRT受け入れの声は大きいですが、一部区間でも鉄路復旧を求める意見がある
- ・BRTを受け入れるのであれば、持続性の確保や利便性の向上等について担保が必要

(気仙沼市長)

- ・大船渡市・陸前高田市の意向を尊重
- ・上鹿折駅までのＪＲ東日本としてのアクセスを将来的に確保されたい

(岩手県)

- ・沿線自治体の判断を尊重する

(宮城県)

- ・沿線自治体の判断を尊重する

■ＪＲ東日本から、沿線自治体首長からの要望等に対して回答があった。ポイントは以下のとおり。

- ・鉄道では十分なフリークエンシーの提供が困難となり利便性が大きく低下すること、駅の設置やルートの変更など柔軟な対応が困難となる等から、一部区間の鉄道復旧は考えていない。
- ・ＢＲＴの本格復旧を受け入れるにあたってはＪＲ東日本として、以下のとおり取り組む
 - ① ＢＲＴについては、持続可能な交通手段として、今後も責任を持って運行するとともに、フリークエンシーの確保や更なる利便性の向上に努める
 - ② 柔軟なルート変更、駅の移設・新設、専用道の整備等により、地域交通の活性化に取り組む
 - ③ 交流人口拡大に向け、新幹線との接続利便性等の向上に取り組む
 - ④ 観光ＰＲ等を通じた観光振興、沿線地域の地産品ＰＲ・６次産業化への取り組みなど、産業や観光の振興による地域の活性化に取り組む
 - ⑤ (本日頂いた) 要望等については、今後も、各自治体と個々に協議を進めていく

■ＪＲ東日本からの回答を受けて、大船渡線の復旧については、ＢＲＴによる本格復旧を受け入れることで合意した。

■今後、ＢＲＴの利便性向上等について、利用者の意見を把握するための会議体等を設けるなど、各自治体とＪＲ東日本との間で個々に協議を進めていくこととなった。

「第3回気仙沼線沿線自治体首長会議」について

■ JR東日本より、気仙沼線における、BRTのサービス向上に向けた取組状況やBRTを受け入れるにあたっての今後の取組方針などについて、説明があった。ポイントは以下の通り。

- ・ 前谷地～柳津間を延伸、沿岸高校生の要望を踏まえたダイヤ改正など、利便性の向上を図った
- ・ 意見交換会やモニター募集により、利用者の意見収集を行った
- ・ 三陸沿岸地域の物産販売を行う「三陸のものマルシェ」の開催、沿岸自治体が主催するイベントへの出展など、地域貢献・地域活性化に取り組んだ
- ・ BRTの本格復旧を受け入れるにあたってはJR東日本として、以下のとおり取り組む
 - ① BRTについては、持続可能な交通手段として、今後も責任を持って運行するとともに、フリークエンシーの確保や更なる利便性の向上に努める
 - ② 柔軟なルート変更、駅の移設・新設、専用道の整備等により、地域交通の活性化に取り組む
 - ③ 交流人口拡大に向け、他の交通機関との接続利便性等の向上に取り組む
 - ④ 観光PR等を通じた観光振興、沿線地域の地産品PR・6次産業化への取組みなど、産業や観光の振興による地域の活性化に取り組む
 - ⑤（本日頂いた）要望等については、今後も、各自治体と個々に協議を進めていく

■ 沿岸自治体首長から、JR東日本の提案（BRTによる本格復旧）について、検討結果や要望等の説明があった。
主な発言内容は以下の通り。

（気仙沼市長）

- ・ 鉄路にこだわる市民もいる中、BRT受け入れの理解は進み、具体的要望も出ている
- ・ JR東日本には真摯に対応いただいております、仙台アクセスや地域振興について市民の納得を得るため、復興事業の大きな支障とならないよう協議を加速させていきたい

(南三陸町長)

- ・ 鉄路復旧は不可能
- ・ B R Tによる本格復旧を受け入れる
- ・ まちづくりを進めるため、今回で判断をしたい。早期に決着したい

(登米市長)

- ・ 新しい交通手段としてB R Tを受け入れる
- ・ 公共交通として今後も維持されること、利便性の向上が図られることを要望

(宮城県)

- ・ 沿線自治体の考えが重要
- ・ 県としても、できる限りの協力を行っていく

■意見交換を行った結果、気仙沼線の復旧については、

- ・ 南三陸町と登米市についてはB R Tによる本格復旧を受け入れることで合意し、
- ・ 気仙沼市については、市民の理解は進みつつあるが、もう少し丁寧な議論が必要であり、また、J R東日本との間で仙台アクセスや地域振興の点でもう少し議論を深める必要があるということで、結論は見送りとなった。

- 首長会議としては今回で最後とし、気仙沼市については、国も関与しながら、J R東日本との協議を継続することとし、被災から5年を迎えるまでに明確な方針を得ることを目標とすることとなった。